

ほけんだより 10月



令和3年10月

愛知県立小牧特別支援学校 保健室

10月に入り、涼しい秋風が心地よくなりました。

秋は「スポーツの秋」「食欲の秋」「読書の秋」などといわれるように、何事も活動しやすく、過ごしやすい季節です。いろいろなことに積極的にチャレンジし、元気よく過ごしましょう。

10月の保健行事

* 1日(金)～ 12日(火) 体重測定

* 22日(金) 医療的ケア指導医訪問



今月の保健目標

目を大切にしよう



10月10日は「目の愛護デー」です。10という数字を横にしてみると、目と眉毛に見えることが由来となっています。「愛護」というのは「大切に守る」という意味です。

みなさんも、このようなことに気を付けて、自分の目を大切にしていきましょう。

正しい姿勢



机との距離は30センチ
くらい離そう。

時間を決める



ゲームやスマホは
時間を決めて使おう。

部屋を明るくする



部屋が暗い時は
電気を付けよう。



医療的ケア情報

毎月、多くの方に読んでいただき保護者の方から感想をいただけるようになりました。ありがとうございます。今月は奥村看護師に原稿を依頼しました。奥村看護師は小牧特別支援学校の医療的ケアの歴史に欠かせない方です。多くの子供たち、そして教職員がお世話になってきました。そんな奥村看護師の「思い」をみなさんと共有できればと思います。「学校看護師として」

こんにちは。看護師の奥村です。今回は少し私の話を書いてみようと思います。

私が看護師になりたいと思ったのは、中学生の時に木藤亜也さんの「1Lの涙」を読み、中学3年生の時、実際豊橋まで会いに行き亜弥さんとお話したことがきっかけでした。亜也さんは初対面の私に目で文字盤を使用し会話してくれました。その後看護師になり15年病院で勤務した後、縁あって小牧特別支援学校に勤務して今年で13年になります。

学校看護師になって病院との違いに戸惑い、悩み、それでも子供たちの笑顔に救われながら日々ケアをしてきました。13年前はケアの児童生徒17人に対し看護師2人。週の半分は保護者ケアをお願いしていました。現在はケアの児童生徒27人に対し、看護師11人。フルケアまであと一歩までできました。ケアの内容も基本的な吸引や注入以外のケアがかなり増えました。個別性の高いケアも増えてきました。正直病院ではない学校でのケアに壁を感じることも多々あります。そんな時はやれない理由を考えるのではなく出来る理由を考えるようにしています。

子供たちの優しいまなざしや、笑顔は13年前も今も変わりません。自分はこの13年で何が変わったのかな？とふと考える時があります。今までもこれからもずっと変わらない思いとして私たちが関わることで子供たちが楽しく授業を受けられるように、そして学校の中でいろいろな人との関わりをもつことで、成長・発達する過程において少しでもプラスになったらいいな、という思いでケアをしています。

そして今後もケアをしながら日進月歩で変わる医療におじけづかないように、緊急時対応にも自分たちの役割ができるように研修を行っていきたい。そしてこのコロナ禍の今、愛知県の現状を踏まえ、学校としてできることを保健部の皆と常に考えながらケアをしていきたいと思っています。今後の展望としてやはり完全なフルケアを目指し看護師の増員、また常勤看護師の複数配置、そうならば看護師の校外学習への同行ももう一歩前進できると考えています。ただ私が一番大切にしたいこと、それはやはり子供を中心とした保護者、先生と看護師の連携です。コミュニケーションをとにかく大切にし、今後も頼りになる保健部の皆と共に毎日子供の笑顔が見られるように頑張っていきたいと思っています。